

令和8年度 佐賀市立城西中学校 教育課程

1 学校教育目標

さわやか挨拶 響く歌声 楽しく学ぶ生徒の育成

2 本年度の重点目標

(1)校内研究を通して、主体的に学ぶ生徒を育てる。(2)特別支援教育を充実させる。
(3)職員みんなで、生徒指導にあたる。(4)生徒の良さを伸ばすことで自己肯定感を高め、規範意識や判断力を育成する。(5)小中連携の取り組みを推進する。(6)佐賀大学や地域との連携を図る。

3 重点取組内容

(1)学習指導の充実

◇校内研究を通じて「共に語り、共に創る～豊かな対話を通して生む課題デザインの探求～」を実践している。授業では、生徒同士の対話を大切にして、そのやりとりを通じて考えが深まったり変化したりする場面を重視している。このような学びの中で、生徒が主体的に学ぶ姿勢を育成する。また、生徒指導の実践上の4つの視点(①自己存在感の感受②共感的な人間関係の育成③自己決定の場の提供④安全・安心な風土の醸成)を日々の授業に意識的に取り入れることで、生徒の自己肯定感や人間関係力、主体性、安心感、レジリエンス(困難から立ち直る力)の向上が期待される。
◇1人1台端末を、アイデアの共有や思考を促すためのツールとして効果的に活用する。また、生徒とともによりよい活用方法を検討し、課題の解決に主体的に取り組む生徒を育成する。

(2)生徒指導の充実

◇生徒のwell-beingの実現を図るために、生徒指導の実践上の4つの視点(①自己存在感の感受②共感的な人間関係の育成③自己決定の場の提供④安全・安心な風土の醸成)を大切にして、生徒自身がルールやマナー、基本的な生活習慣等について考え、関係者と調整してよりよい学校をつくれるように環境を整える。
◇教育相談部会を隔週で開催し、不登校や配慮が必要な生徒などの情報を共有し、具体的な支援策を話し合う。また、別室対応支援員やサポート相談員、スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)も部会に入ること、多面的な視点を取り入れ、よりよい支援につなげる。
◇情報教育(情報モラルや情報リテラシーなど)を通して、学習用端末やスマートフォンを使用する際の留意点を考えさせる。また、ネットトラブル防止のため、日常的に情報教育を行う。
◇学校運営協議会(コミュニティ・スクール)や校区民生・児童委員協議会などで学校の現状を地域と共有し、学校と地域が一体となって生徒の健全育成を図る。
◇月に1回、いじめアンケート「心の声」を実施し、いじめやトラブルの早期発見に努める。
◇相談室登校の生徒には、小中連携を深めて情報共有を密にし、適切な支援を行う。
◇WEB-QUを活用し、生徒一人一人や学級全体の実態を把握し、指導や改善に生かす。
◇不登校の生徒には、別室対応支援員やサポート相談員、SC、SSWなどと連携したチームで対応し、生徒と保護者を支援する。

(3)特別支援教育の充実

◇特別支援教育部会を隔週で開催し、生徒のニーズを把握し、生活面や学習面における具体的な支援策を話し合う。また、学校生活支援員や特別支援学級支援員も部会に入ること、多面的な視点を取り入れ、よりよい支援につなげる。
◇全教職員を対象とした研修会を実施し、正しい理解のもと、障がいの状況に応じた適切で組織的な支援に務める。
◇「個別の教育支援計画」および「個別の指導計画」を活用し、保護者の理解と協力を得ながら、効果的な支援を行う。
◇地域との連携や特別支援学校との交流、小中支援学級間での引継ぎを含めた情報共有を推進するとともに、関係機関との連携を深めて、よりよい支援につなげる。
◇授業や教室掲示のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、ICTの活用を促進することで、すべての生徒が学びやすい環境をつくる。